

第2回天竜川水系流域委員会

議事要旨

日 時：令和2年6月29日（月曜日）13：30～15：30

場 所：WEB会議

1. 開会

2. 開会挨拶

（中部地方整備局 天竜川上流河川事務所 所長）

3. 委員長挨拶

4. 議事

(1) 第1回流域委員会での指摘事項とその対応

- ・ 水質による影響については引き続き調査を継続していただきたい。また、関係機関への聞き取り調査も行って頂きたい。
→ （事務局回答）関係機関との調整を十分に図っていきながら事業を進めていく。
- ・ 樹木伐採・伐開における環境場の検討については、環境情報図を更新するなど、近年の河川環境の変化を把握して頂きたい。

(2) 天竜川ダム再編事業の事業評価

- ・ 「吸引工法」から「置土工法」を選定するにあたり、ベルトコンベア以外の工法について方法は検討したのか。
→ （事務局回答）工法については工法検討委員会にて決定しており、ダンプ運搬や圧送管形式も過去検討している。経済性などからベルコン形式を採用した。
- ・ 委員会資料にて検討の経緯が確認できるので説明していただきたい。
→ （事務局回答）今後説明させて頂く。
- ・ 目標とする外力に対する浸水被害軽減の観点だけでなく、既往最大以上の洪水が発生した場合の減災対策についても考慮していくべきである。
→ （事務局回答）整備計画見直し検討の際、視点の一つとして考慮していく。
- ・ 堆砂対策の効果はいかほどか。
→ （事務局回答）河口まで到達する土砂量では、海岸で砂浜を形成する砂成分が現在よりも10万 m³増量する。
- ・ 費用便益比（B/C）の算定で前回再評価時とコストの違いについて示されたい。

- (事務局回答) 今回の事業再評価では当初工法によりコストを算定している。新工法は令和2年2月の委員会で決定したところであり、今後、施設設計を進め事業費を算出する。なお、説明資料を一部修正する。修正箇所は、「費用対効果分析」に、「堆砂対策の建設費は吸引工法で計上」のコメントを追記する。
- ・ 置土工法は平常時に浚渫した土砂をストックヤードに置き、出水時に流下させる工法だが、小出水でも流下すると想定される。下流河川への影響は如何か。
- ・ 小洪水では置土が流下しない工夫をしていることを委員会資料にて説明していただきたい。
- (事務局回答) 今後説明させて頂く。
- ・ 事業の工期を延期する理由は堆砂対策工法の変更に時間を要したとのことであるが、洪水調節に関する事業の進捗は如何か。
- (事務局回答) 洪水調節施設の設計については、堆砂対策施設の設計に影響する可能性があることから、一体となって検討を進めているところである。
- ・ 土砂の不連続性など、子供や住民目線でわかりやすい説明を行うことに留意されたい。
- (事務局回答) わかりやすい説明を行っていく。
- ・ 天竜川は淵が多く生物が多様なことが特徴であるが、土砂の供給により、淵が埋まることを懸念している。淵での堆積状況等を調査して必要であれば対策してほしい。
- (事務局回答) 生物に重要な瀬、淵のモニタリングを実施していく。
- ・ 天竜川水系では総合土砂管理計画検討委員会があり、下流河道への影響について検討をしている。公表資料を整理し、説明していただきたい。
- ・ 天竜川ダム再編事業を進めるために、環境を含む流砂系に関する委員会、堆砂対策の工法に関する委員会がある。これらについて公表資料にて説明していただきたい。
- (事務局回答) 今後説明させて頂く。
- ・ 秋葉ダム、船明ダムの堆砂対策については如何か。
- (事務局回答) 秋葉ダムや船明ダムの堆砂対策は、洪水時に上流の佐久間ダムと連動したゲート操作について関係者と調整を進めているところである。
- 天竜川ダム再編事業の事業評価の原案については了承された。

(3) 三峰川総合開発事業(美和ダム再開発)の事業評価

- ・ 美和ダム直下流に位置する高遠ダムへの影響はないか。
- (事務局回答) 流下する土砂は細かいので、下流の高遠ダムへの影響はないと考えるが、水質や河道形状について事前調査や運用後の調査を行い、下流への影響についてはモニタリングしていく。

- ・ 天竜川水系の問題として、ダム¹の維持管理に関する事項や、高遠ダム²の状況についても説明すること。
- ・ 美和ダム上流にダムを建設する案の現状を教えて欲しい。
- (事務局回答) 戸草ダムは、H21の整備計画では社会情勢の変化を踏まえて検討することとなっているため、今後、気候変動による整備計画の見直しを踏まえて引き続き検討していく。
- ・ 費用対効果分析で、前回評価と今回評価で、便益(とくに公共土木施設等被害)の金額が減少した理由は何か。
- (事務局回答) 公共土木施設等被害の減額については、令和2年4月のマニュアル改定の中で農業施設被害の算定方法について、これまで一律に率で計上していたものを個別に計算することになり、大きく減額した要因となっている。
- ・ 下流に土砂が流下することによる生物への影響について留意していただきたい。
- (事務局回答) 天竜川本川まで含めて、3年間モニタリング調査を行い、適切なストックヤードの運用を検討する。
- ・ 下流に位置している中電の泰阜ダム、平岡ダム、佐久間ダム等への排砂の影響はどうか。
- (事務局回答) 美和ダムから流下する土砂は、ウォッシュロードがほとんどであるため、河道に堆積せず海まで流下すると考えている。
- ・ ダム湖内の濁水長期化に影響ないか今後検討いただきたい。
- ・ 天竜川水系の総合土砂管理の課題でもあることから、今後の流域委員会の話題としていくこととする。
- 三峰川総合開発事業(美和ダム再開発)の原案については了承された。

(4) 気候変動を踏まえた水災害対策小委員会とりまとめ概要

- ・ 特になし

5. 閉会挨拶

(中部地方整備局 浜松河川国道事務所 所長)

6. 閉会

以上